

令和7年度 授業改善推進プラン（5年）

台東区立金曽木小学校

| 教科 | 観点 課題と思われる観点に○ | 児童の実態及び課題 | 授業改善に向けての具体的な方策 | 方策に対する検証 |
|----|-------------------|---|--|--|
| 国語 | 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字を正しく書いたり、文章の中で使ったりすることに課題がある。 ・相手や目的を意識したり、調べたことをもとにしたりして、文章を書くことに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習の際に、漢字のポイントや使い方を押さえ、毎日の家庭学習において漢字ノートや練習プリント等の課題を出す。 ・漢字小テストを定期的実施する。 ・国語の物語文や説明文の読解において、文字数を制限して要約文を書く練習する。 ・他教科においても、自分の考えを書く活動を取り入れ、その根拠を明確にして書くことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストの正答率が80%を8割の児童が達成する。 ・単元末ワークテストで自分の考えを書く問題における正答率が80%以上を8割の児童が達成する。 |
| | 思考力・判断力・表現力 | | | |
| | 学びに向かう力、人間性等 | | | |
| | | | | |
| 社会 | 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の習得が全体的に課題となっている。 ・資料を正しく読み取り、問いに対する解答を考えることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を掲示し、学習を振り返られるようにする。 ・授業終末時に学んだ用語を使ったまとめを行い、基本的な用語、地名等を理解できるようにする。 ・教科書や資料集の資料を見て解決する課題を普段の学習から多く取り入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元末ワークテストで知識・技能の正答率80%以上を8割の児童が達成する。 ・単元末ワークテストで思考・判断・表現の正答率80%以上を7割の児童が達成する。 |
| | 思考力・判断力・表現力 | | | |
| | 学びに向かう力、人間性等 | | | |
| 算数 | 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさの目盛りの読み取り方、分度器の使い方について課題がある。 ・正しい計算の順序で、四則計算をすることに課題がある。 ・複合図形における面積の求め方や立式の仕方について課題がある。 ・伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、一方の数値からもう一方の数値を求めたりすることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンパスや分度器を実際に使いながら正しい操作を定期的に身に付けるようにする。 ・既習事項を掲示し、学習を振り返られるようにする。 ・東京ベーシック・ドリルを活用し、分数や小数の計算や、計算のきまり、わり算、面積に関するプリントを繰り返し実施する。 ・立式の根拠を言葉で説明する活動を多くし、式の意味を考えながら計算できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図形領域の単元末ワークテストで正答率80%以上を8割の児童が達成する。 ・該当する東京ベーシック・ドリルのプリントの正答率80%以上を8割の児童が達成する。 ・計算過程や公式について言葉や図で説明できる児童が7割以上を目指す。 |
| | 思考力・判断力・表現力 | | | |
| | 学びに向かう力、人間性等 | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 理科 | 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・動植物の様子を観察して特徴や変化に気づいたり、科学的な事象について理解したりすることに課題がある。 ・実験の結果を分析し、実験からわかることを説明することが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を掲示し、学習を振り返られるようにする。 ・考察において、現象とその要因について目を向けて記述できるようにする。 ・授業の終末時に学んだ用語を使ったまとめを行い、基本的な用語等を理解できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能領域の単元末ワークテストで正答率80%以上を7割の児童が達成する。 ・授業後のノートにおいて、原因と結果などの理科の見方、考え方に目を向けている児童を価値付け、8割の児童が見方・考え方に目を向けられるようにする。 |
| | 思考力・判断力・表現力 | | | |
| | 学びに向かう力、人間性等 | | | |